



ありがとうメッセージ

ご支援いただいた皆さまへ、感謝の気持ちと
震災から1年を迎える会員施設の今をお伝えします。



多くのご支援に感謝



社会福祉法人福島県社会福祉協議会
老人福祉施設協議会 会長 三瓶 政美

この度の東日本大震災は、マグニチュード9.0という巨大地震とそれによる大規模な津波により福島県沿岸部である浜通りに大きな被害をもたらしました。さらには、追い打ちをかけるように東京電力福島第一原子力発電所の電源喪失、水素爆発が起り、高齢者入所施設だけで34施設、1,829名に及ぶ利用者が職員とともに、避難を余儀なくされるという事態となりました。

突然の避難命令により、着の身着のまま移動を強いられ、介護設備もない不十分な環境の中での避難生活は、利用者そして職員にとって大変過酷なものでした。県内外多くの施設の皆様に、避難利用者の受け入れにご協力いただき、また今現在もご支援いただいておりますことに対し感謝に堪えません。

原子力災害により、避難を余儀なくされた本会の会員35施設の多くが、放射線の問題により故郷の地を踏むことさえ許されず、先の見えない不安や苦しみの中にあります。

このような中、全国各地の皆様から温かい励ましの言葉と共に、ご支援をいただきましたことは、前を向き故郷への帰還に向け一歩を踏みだす大きな力につながりました。改めて深く感謝申し上げます。

現在、平成23年9月30日に緊急時避難準備区域が解除されたことに伴い、本会の会員8施設が事業を再開し、206名の入所利用者がもとの施設に戻ることができました。また、一部会員施設では、仮設住宅地内でサポートセンターの運営により、避難してきた住民の支援にあたっております。さらには、仮設の施設(特別養護老人ホーム)の建設に向け動き始めた法人もあります。しかしながら、未だ故郷の地で事業再開を果たせている会員施設は25施設もあります。

震災後1年が経過しようとしている今なお、原子力発電所事故の収束は見通しが立っておりません。また、放射性物質の除染も遅々として進まない中、若年層人口の流出により、福祉の人材確保が一層深刻な状況となっております。

遠く厳しい道のりではありますが、会員施設一丸となってこの困難に立ち向かうべく、避難施設が一日でも早く利用者とともに故郷に戻れることを願って努力して参る所存です。

皆様におかれましては、引き続き福島県の復興を見守っていただきますよう心よりお願い申し上げます。

震災から1年…会員施設からのありがとうメッセージ



社会福祉法人
田村福祉会 常務理事 渡辺 剛志



この度の震災及び原子力災害の被災において全国の老人福祉施設協議会、関係団体の皆様より温かいご支援を頂きありがとうございました。

田村福祉会では地域5か所の事業拠点の内、特別養護老人ホーム都路まどか荘(特養50名、ショートステイ20名)が原子力災害の影響で避難を余儀なくされ、併設のデイサービスセンター(定員25名)が事業休止に追い込まれました。避難初期は系列事業所の特別養護老人ホーム船引こぶし荘のロビーや食堂での集団処遇、1か月後には同じく系列事業所の個室ユニット型特別養護老人ホームときわ荘の居室を半分開放し(2人部屋として利用)なんとか普段の生活を取り戻すことができました。その間、各事業所が連携し、被災施設の要介護者や障害者の受入、地域の避難要介護者の受入、原発事故の拡大に備えた避難準備、生活物資の確保、職員の確保、災害復旧工事、放射線量測定及び除染等の対応に追われ1年が経過しようとしています。2月現在、都路まどか荘の帰還とデイサービス再開に向けて、職員の確保、施設内外の環境整備等を進め、地域福祉復興のため努力を続けていますが、まだまだ先の見えない不安の中での施設運営になっています。

今後とも全国老施協、関係者の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。御礼のメッセージとさせていただきます。

特定非営利活動法人Jin
一樹デイサービスセンター 代表 川村 博

利用者とともに避難し、最後の一人を家族に送り届けたのが3月22日でした。その後私たちは、一次避難所・二次避難所を回り、朝から晩まで体操教室を行いました。10月以降、二本松市、本宮市、福島市の仮設住宅地内にサポートセンターを開設し、現在に至っています。避難先では皆さんから物心両面にわたる多大なるご支援をいただきました。また、全国の見ず知らずの方々からも貴重な浄財、応援や励ましの言葉、心のこもった贈り物を頂戴しました。心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。私たちも必ずや恩返しをしたいと強く思っております。



さて、あの震災からもうすぐ一年になろうとしています。ふるさとに帰りたいと切望する言葉が増えてきたように思います。そして私たち福祉事業に携わる者は、本人の気持ちに沿って、それを形にしていかなければなりません。「たくさんの人に支えられて、それは大変ありがたいけれど、ここでは死にたくない。浪江の空を見て浪江の空気を吸って死にたい。」と涙を流した老人。「何とかする。」と心に誓った。

東京電力福島第一原子力発電所事故による避難の状況

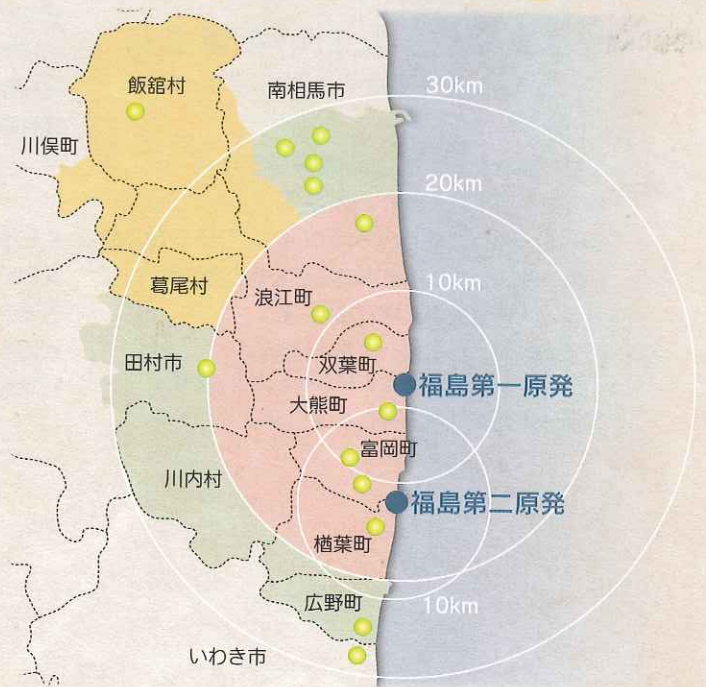
● 会員施設(入所) ■ 警戒区域 ■ 緊急時避難準備区域 ■ 計画的避難区域

避難指示

3月11日	14:46	地震発生(マグニチュード9.0)
	19:03	原子力緊急事態宣言発令
	20:50	原発半径2km圏内に避難要請
	21:23	原発半径3km圏内に避難指示
3月12日	5:44	避難指示区域半径3kmから半径10kmに拡大
	15:36	1号機で水素爆発
	18:25	避難指示区域を半径20kmに拡大
3月14日	11:01	3号機で水素爆発
3月15日	5:45	2号機で爆発音
	9:00	放射線量最大値を観測
	11:00	半径20kmから30km圏内に屋内退避指示
4月22日		計画的避難区域指定 半径20kmから30km圏内緊急時避難準備区域指定 半径20km圏内警戒区域に指定
9月30日		緊急時避難準備区域解除

会員施設の状況

警戒区域 【半径20km圏内】	特別養護老人ホーム	6施設
	養護老人ホーム	1施設
	デイサービスセンター	10施設
緊急時避難 準備区域 ※H23.9.30解除	特別養護老人ホーム	6施設(内4施設事業再開)
	養護老人ホーム	1施設(事業再開)
	デイサービスセンター	8施設(内5施設事業再開)
計画的避難区域	特別養護老人ホーム	1施設
	デイサービスセンター	2施設



福島第一原子力発電所事故に伴い避難した30km圏内及び近圏の高齢者施設入所者の避難

2012年1月1日現在の状況 避難施設数(入所) 21施設
避難者数 943名

社会福祉法人伸生福祉会 特別養護老人ホーム 長寿荘 施設長 中川 正勝

福島県南相馬市の特養「長寿荘」は、大震災そして原発事故後から、お陰様で昨年11月に再開をすることが出来ました。

この間、全国の会員をはじめ関係施設や団体の皆様方から、物心両面にわたり心温まるご支援ご協力を賜りましたこと、まことにありがたく、感謝と御礼を申し上げます。

今思えば、当時は原発の状態が日に日に悪化する中、利用者の身の安全を守りたい一心で奔走し、3月中旬には栃木県内13特養施設のご協力で無事に避難出来ました。その時の安堵感は今でも忘れることが出来ません。

その後、事故も不安定な状況が続く中、施設も休業となり、それから半年が過ぎ、25km離れている地域の避難指示解除とともに除染、11月によりやく再開出来ました。しかし、職員も避難退職をした方もいて、まず特養定員70人のうち50人でスタート、12月には短期入所、1月からは通所介護を順次再開をすることが出来ました。

今年で30周年を迎える施設ですが、震災前まで途切れることなく運営を続けてきたのが休業になったりし、また何気なく過ごしてきた日



日常生活の大切さ、関係施設の思いやりなど、一方で様々なことを学ばせていただきました。

今後は、原発事故の一日も早い収束を願いつつ、皆様方のこれまでのご恩に報いるためにも、地域の高齢者福祉の発展にこれからも頑張ります。

社会福祉法人伸生双葉会 養護老人ホーム 東風荘 施設長 志賀 昭彦

『感謝』と『希望』を胸に・・・

昨年は、私共にとって、厳しい試練の年でした。東日本大震災での被災後、東京電力福島第一原子力発電所事故による強制避難に始まり、避難時における入所者との死別、劣悪な環境での入所者介護、職員の離職、入所者の健康被害などへの対応など、被災当初は矢継ぎ早に派生してくる問題群の対応に忙殺される日々でした。そんな中、本当に多方面からご支援を頂戴いたしました。全国老人福祉施設協議会会員の皆様方からの義援金とご厚情により、私共施設にも福祉車両のご寄贈を賜ったことや、励ましのメッセージを頂戴しましたことなど、物心両面からご支援頂いておりますこと、感動と感謝の気持ちで一杯です。

ただ、私共は厳しい現状を嘆いてばかりいられません。県内外に飛散した地域住民の方々のためにも、再会を夢見る入所者のためにも、訳があって泣く泣く離職した職員のためにも、そして必死に入所者のため、現在も入所者支援を続ける職員のためにも、人員不足など厳しい運営状況の中、快く入所者を受け入れて頂いております関係施設の皆様方のためにも東風荘の再建を目指さねばと活動を開始したところです。

感謝＝現状肯定、そして希望＝現状否定、相反する矛盾した思考ではありますが、これからもこの『感謝』と『希望』という両面の思いを大切にしながら、一步一步再建に向け前進してまいりたいと考えております。

ご支援本当にありがとうございました。



県輸送大会での入所者との再会写真

ご支援をいただいた皆さま

～心より感謝申し上げます～

公益社団法人全国老人福祉施設協議会 様

財団法人日本老人福祉財団 様

SAVE THE CHILDREN FEDERATION INC 様

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会 様

社団法人青森県老人福祉協会 様

社会福祉法人秋田県社会福祉協議会

秋田県老人福祉施設協議会 様

社団法人新潟県老人福祉施設協議会 様

関東ブロック老人福祉施設連絡協議会 様

茨城県老人福祉施設協議会 様

社会福祉法人群馬県社会福祉協議会 様

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設部会 様

〃 センター部会 様

〃 介護保険居宅事業者連絡会 様

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 高齢福祉部会 様

愛知県老人福祉施設協議会 様

近畿老人福祉施設協議会 様

社団法人兵庫県老人福祉事業協会 様

社会福祉法人福岡県社会福祉協議会

福岡県老人福祉施設協議会 様

(順不同)



社会福祉法人おおくま福寿会
特別養護老人ホーム サンライトおおくま

施設長 池田 義明

東日本大震災及び原子力発電所の事故に伴い「サンライトおおくま」の全ての事業を一時休止しておりましたが、昨年10月に大熊町からの要請を受けまして、再雇用となった職員16名でデイサービスとグループホームを会津若松市の仮設事業所で再開しております。

グループホームは震災前に入居されていた方と、避難生活により認知症が進み仮設住宅や借上げ住宅での生活が困難になった方で満床になっております。

デイサービスも会津若松市内の仮設住宅や借上げ住宅で生活している方で、震災前から利用されていた方や避難生活により介護が必要になった方が、1日平均17名利用しております。

震災前の特別養護老人ホーム入所者80名は、この11ヶ月の間に19名が亡くなり、10名の方は御家族が引き取り、51名は現在も県内の17施設に「定員外で仮の入所」という形でお世話になっております。グループホーム入居者は1名が亡くなり、6名が御家族で引き取りそれぞれの避難先で介護サービスを利用されており、2名は当法人の仮設事業所のグループホームに入居されています。

震災前の職員104名は、それぞれ家族等の事情で多くは県外やいわき市に、その他郡山市、福島市、会津若松市などに避難しており、先の見えない不安な避難生活を強いられながらもがんばっています。

このたびの震災に際しましては、全国各地の老人福祉施設協議会や関係団体の皆さまから、多くの義援金や物資のご支援、又心温まる励ましのお言葉をいただき本当にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。御礼の言葉といたします。



有限会社クリエイト
デイサービスセンターゆずのさと 所長 高木 健

巨大地震は突然やってきました。東日本大震災です。当時、私は、福島県榎葉町で老人デイサービスセンターを経営、順調にサービスを提供しておりました。

地域は壊滅的な被害を受け、戦場を見ているような光景です。自宅も全壊してしまいましたが、幸い、事業所は最低限度の被害で事業展開が可能な状態でした。しかしながら翌朝、福島第一原子力発電所の災害により避難を余儀なくされました。いわき市にある小学校の体育館やいわき市の特別養護老人ホーム高砂荘に二晩身を寄せさせていただきましたが、風評被害によりいわき市に物資が全く届かない状態となり、やむなく一路関東方面への避難を決断、私の友人である、辰巳萬緑苑の施設長 小出浩丸さんをたより着のみ着のまままで市原市に辿り着きました。高砂荘や千葉県、市原市の皆様方には特段のご支援を賜り心より感謝しております。

また、全国各地の老人施設協議会を始め、関係団体の皆様には多額の義援金や支援物資を賜り厚く御礼を申し上げる次第です。現在、榎葉町は福島第一原子力発電所事故の避難区域になっており立ち入ることが困難です。今後、除染やインフラの整備が行なわれるとの情報ですが、時間がかかることは容易に想像できます。辰巳萬緑苑にて2名の利用者の方をお預りいただいておりますが、家族の元に戻った利用者さんも多数亡くなったとの連絡を受けております。残念で仕方がありません。

私は、「成せば成る、成さねば成らぬ何事も、成らぬは人の成さぬなりけり」という米沢藩主だった上杉鷹山の言葉を力にしていきました。また福島に地に戻り、高齢者福祉の事業を立ち上げ成功させることが現在の私の希望です。そして、いつの日か、ご支援をいただきました皆様へ成功のご報告をしたいと思っております。

皆様のご支援、本当にありがとうございます。

皆様の御礼の言葉といたします。

皆様のご支援、本当にありがとうございます。



社会福祉法人福島県社会福祉協議会 老人福祉施設協議会

〒960-8141 福島県福島市渡利字七社宮111

TEL 024-526-0045 FAX 024-524-3618

E-mail shisetsu@fukushimakenshakyo.or.jp

HP http://www.fukushimakenshakyo.or.jp/